

令和 7 年度
横浜市立高等学校
及び
併設型中学校
学校関係者評価書

対象校：横浜市立横浜商業高等学校別科

調査全体の日程

調 査 日： 令和 7 年 4 月 1 日 ～令和 8 年 3 月 31 日

調査対象校：横浜市立横浜商業高等学校別科

調査チーム：学校運営協議会

立石 太郎 同窓会会長

宮本 享児 後援会会長

岩澤 忠史 丸山第1町内会会長

学校担当者 中村 智子 美容科職員

学校評価集計の結果を郵送し、各項目についてご意見を頂く形で行った。

1 第4期横浜市教育振興基本計画の推進状況

□魅力ある高校教育の推進

- ・生徒、保護者、社会（理容美容業界）信頼される学校づくりを目指し、理容師・美容師国家試験に合格するだけでなく、実際にその資格や能力を生かし、社会に貢献できる理美容人材の育成を推進している。技術にくわえ、人間力を身に付けさせる教育への理解が深まっているので引き続き実践していく。本校の生徒は、100%が就職することから、在学中から理容業・美容業が人と接する職業であることを認識させ、社会福祉施設利用者を迎える総合的な実践実習や理容美容サロンでの実務実習など実践的な実習を通じて相手を尊重し、それらに対応できる知識と技能を習得できる機会を増やしていきたい。

□多様化する生徒への支援

- ・生徒の特性を理解する研修の実施やSCやSSWとの定期的な情報共有会議を通じて、全教職員の多様な生徒への指導方法や保護者対応に大きな変化がみられるようになった。特にいじめなどの事象に対する未然防止や早期発見につながる教職員の気づきが増えた。今後もすべての生徒が安心して学習活動が行える環境を整えていきたい。

2 教育活動の状況

□教育活動の状況について

- ・教育課程検討委員会を中心に、生徒に身に付けさせたい資質・能力を常に検討を重ね、教員全体での議論を通じて課題を共有した。令和6年度より2年次の夏季休業中に実務実習、理美容合同企業説明会（6月）、1年次就職セミナー（12月）等を通じて就職活動に向けたキャリア形成や心構えを啓発することに繋がった。今後も学校内外の状況を幅広く視野に入れながら社会に求められる資質・能力を明確化できるように努める。

□教科指導の状況について

- ・国家試験100%合格に向けて「指導の個別化」「学習の個性化」に対応できるようICT支援員と連携し、一人1台端末等のICT機器を活用した指導方法の研修にも積極的に取り組むことができた。各学期末において特別時間割を多く組み、外部講師による授業や講演会を実施し、技術だけでなくこれからの社会生活に必要な知識と能力を身につけさせることができた。今後は、教育課程検討委員会と連携して選択科目を見直し、「実務実習」を増やし、職業観が浸透するよう努めていきたい。

□特別活動・部活動の状況について

- ・全体として特別活動や行事への取り組みは概ね高く評価された。行事において生徒の参加意欲については、主体的に取り組む姿勢が定着してきている。コミュニケーション力も行事を通して学校全体として高めることができた。内容も含め今後は準備やサポートの工夫や質の向上に向けた改善を考えていきたい。部活動においては、時間を計画的に使い活動ができたので継続して努めていく。

3 学校経営の状況

□教育目標等の設定・実施について

- ・学校教育目標に関して、生徒相談の時間を確保したり、定期的にケース会議等を開催したりして、生徒の様々な課題に組織的に対応できている。特に教職員間での「将来構想検討委員会」を中心に活発な議論を進めてきた表れと評価している。学校の方向性を検討する中で求める生徒像や育てたい生徒像、スクールミッションが明確となり、教育活動全般を見直すきっかけとなっている。

□学校経理、施設・設備、情報の管理の状況について

- ・学校経理業務の負担を軽減するために、特に学校納入金の徴収方法の変更を検討した。また教職員の準公金の取り扱いについて研修を重ね、徴収額の見直しや適正な執行を心掛ける。
- ・個人の携帯端末の取り扱いなど、教職員への研修を通じて個人情報管理の意識が高まっている。

□危機管理の状況について

- ・今年度も実践的な避難訓練を実施し、生徒の防災意識は向上していると考えている。教職員についても様々な状況を想定した避難訓練を通じて、日頃から自身の災害時、緊急時の動き方を確認している。
- ・一方で保護者、生徒のアンケートでは避難経路等を把握していない者が20%いるので、「すぐーる」などを活用した学校からの正確な情報発信や共有を進めていきたい。

4 いじめへの対応に関する項目

□いじめへの対応について

- ・ いじめ解決のためのアンケートの面談・聞き取り調査を丁寧に対応できている。また、朝の打ち合わせや職員会議・いじめ防止対策委員会を全職員で行っているので、生徒の状況や情報共有が速く、各科・各学年を中心に指導にあたることが可能となっている。次年度以降も細かい対応や指導を心がけ、未然防止に取り組んでいきたい。

5 学校関係者評価 提言（380字以内）

「理美容業界をリードする人材の育成」について、ますます質の高い教育と質の高い生徒を育成できるよう継続を望む。教育活動において職員の意欲と入学後も変わらぬ指導で生徒に向けた現場での指導と対応の難しさを感じたという意見を頂いた。理美容師では清掃衛生においては、安心や安全に授業ができる環境をつくるために必要であるが、まだ自主的、主体的にできる生徒が十分とは言えない部分も見受けられることから、学校としての課題を明確にし、計画的な改善に取り組んでいき、生徒の登下校のマナー、衛生面において適切な指導や取り組みが必要と考えられる。近年の生徒の多様化に伴い、生徒指導の難しさが増している中で、職員1人の仕事量が多いと見られたが、平準化が見られ改善されているように感じるという意見を頂いた。